

令和 4 年度（令和 3 年度対象）

生駒市教育委員会活動点検評価報告書

令和 4 年 8 月

生駒市教育委員会

生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の 状況に関する点検・評価について

生駒市教育委員会では、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「生駒市教育大綱」が平成２８年６月に策定されたことに伴い、本大綱で示された基本方針に基づく具体的な事業を掲げたアクションプランを平成２８年８月に策定し、社会情勢の変化や点検・評価の結果を踏まえ、毎年度アクションプランを見直すこととしています。

そして、本アクションプランを基に、生駒市教育大綱の基本理念である「『遊ぼう』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けて、各施策及び事業に取り組んでまいりました。

大綱については、社会情勢の変化やアクションプランでの取組実績・成果等を踏まえ、令和２年６月には第２次生駒市教育大綱が策定され、今回は、第２次生駒市教育大綱に基づく施策及び事業に関して、２回目の点検・評価の実施となります。

この度、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づく、生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、令和３年度の実績を、アクションプランに掲げられた施策及び事業を中心に点検・評価を行いましたので、同法第２６条の規定により報告します。

令和４年８月２２日

生駒市教育委員会

教育長 原 井 葉 子

目 次

令和4年度（令和3年度対象）活動点検評価報告書の作成にあたって	1
1 報告書の位置付け	1
2 国等の動向	1
3 点検評価の概要	2
4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見	3
教育委員会の活動状況	4
教育大綱に基づく施策・事業	6
基本方針1 子育てを楽しめる地域づくり	6
1 保護者支援の場・コミュニティづくり	6
2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実	12
基本方針2 21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり	15
1 「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」の推進	15
2 ICT機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備	17
3 多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成	21
4 主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心の育成	25
5 「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備	29
基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり	31
1 すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出	31
2 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり	35
3 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現	38
4 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展	42
点検及び評価に関する意見	48

令和４年度（令和３年度対象）活動点検評価報告書の作成にあたって

１ 報告書の位置付け

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）第２６条第１項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

２ 国等の動向

国では、改正法が平成２７年４月に施行され、教育委員会制度が大きく変わりました。

また、学習指導要領が平成２８年度末に改訂され、幼稚園は平成３０年度、小学校は令和２年度、中学校は令和３年度から新たな学習指導要領に基づく教育課程や指導が実施され、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組や、小学校高学年での「外国語科」の導入など、教育を取り巻く環境が大きく変わりました。

併せて、令和２年度には新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、GIGAスクール構想が前倒しされ、情報端末が児童生徒１人に１台が配備されました。また、中央教育審議会では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を柱とした「令和の日本型学校教育」の実現がまとめられています。

生駒市では、平成２８年６月に「生駒市教育大綱」を策定し、基本理念である「『遊ぼう』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けた具体的な取組を「アクションプラン」として掲げ、毎年度PDCAサイクルに基づく効果的な進行管理を行うことにより、より実効的な施策・事業を推進しています。なお、本大綱は推進期間が４年間とされていたことから、社会情勢の変化やアクションプランにおける実績や成果等を踏まえて、令和２年６月に第２次生駒市教育大綱を策定し、具体的な取組を進めています。

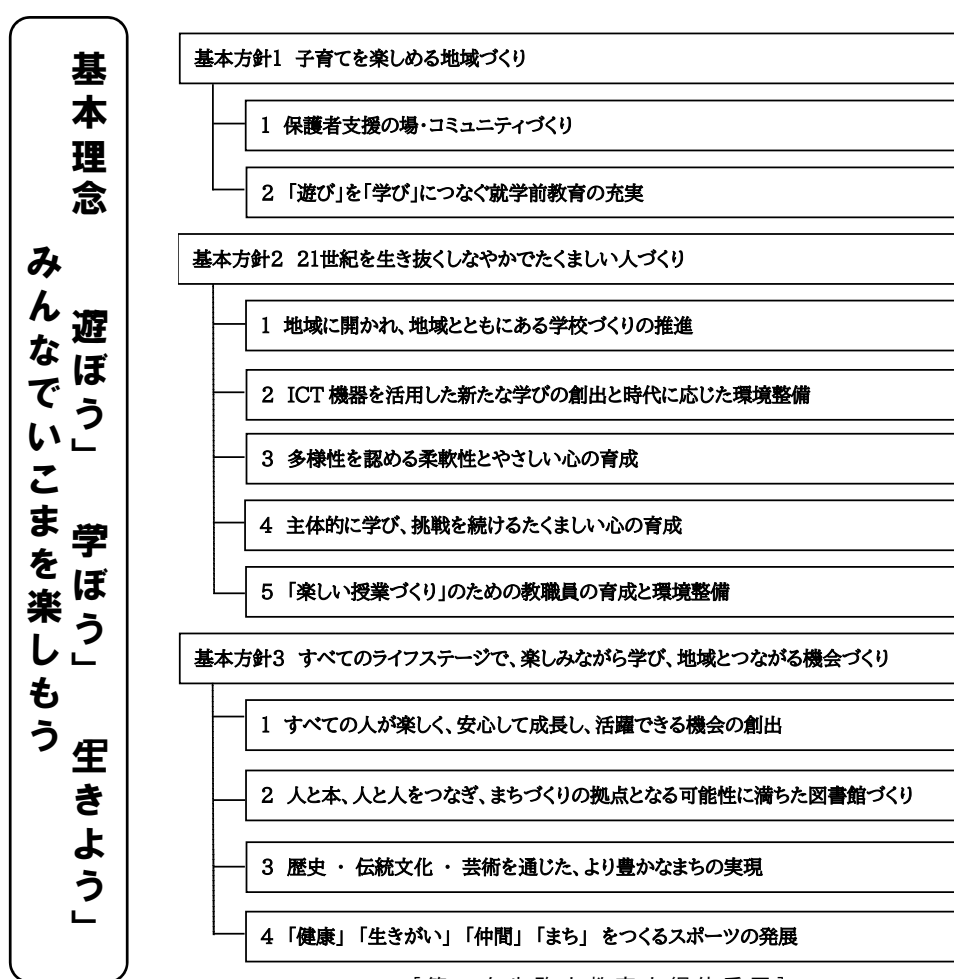
3 点検評価の概要

(1) 点検評価の対象

令和3年度は、教育委員会が行っている活動を大きく下記の2つに分類しそれらを構成する各施策・事業について、点検評価を行います。

①教育委員会の活動状況

②第2次生駒市教育大綱に基づく施策・事業



[第2次生駒市教育大綱体系図]

(2) 点検評価の方法

各事業の取組の実績を踏まえ、達成状況を4段階の評価基準をもって評価します。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価にあたっては、アクションプラン掲載事業については目標に対する達成度を評価するとともに、当該事業等の実施によってどのような効果が得られたのかを明確にして評価することを原則としていますが、令和３年度は、令和２年度に続いて、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止や変更を行っていることから、取組内容を重視した評価を行うこととしています。

未達成の事業や取組が十分でない事業がある場合は、その要因と理由を明確にし、次年度以降の活動や事業等の実施に活かしていくこととします。

4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見

点検及び評価にあたっては、法第２６条第２項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、生駒市教育委員会活動点検評価委員２名を委嘱し、教育委員会による自己評価に対し、同委員から意見が提出されています。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育委員会の活動状況

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
教育委員会 会議の開催	定例会及び臨時会を開催し、議案及び報告案件を審議する。 教育委員会が所管する予算、規則の制定改廃、人事案件等について議決、承認を行う。	【会議開催回数】 定例会：12回 臨時会：3回 【審議件数】 議案：36件 報告案件：20件	A 新型コロナウイルス感染拡大の状況であっても、ICTを活用し、毎月の定例会に加え、緊急性のある案件については臨時会を開催するとともに、規則の制定改廃や学校での事案等の各案件について、十分な審議の上、遅滞なく議決、承認を行った。
学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参観	定期学校訪問を実施。 30校園を対象に訪問し、授業の参観及び学校運営全般にわたる視察を行った。 幼・小・中の卒業（園）式及び運動会に参列する。	市内30校園で学校訪問を実施し、学校経営、教育課程の運用、学習指導など学校教育全般にわたり、学校の実態に即して指導助言するとともに、各学校が主体的に、より充実した教育活動や特色ある学校経営が推進できるよう支援した。 一人一台端末の導入に伴い活用が進むように助言した。	A 新型コロナウイルス感染症に伴い、各校が臨時休校していた影響に鑑み、子どもたちの学びの保障の観点から、指導助言を行うとともに、改めて目指すべき本市の教育の方向性を確認し、推進する機会を得ることができた。特にICT機器の効果的利用に関して点検と助言を行った。
その他市教育委員会主催事業等への参加	成人式、市民体育大会及び市民体育祭、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会等へ参加する。	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部行事等が中止等になったものの、開催された教育委員会主催事業に参加した。 (成人式)	A 新型コロナウイルス感染症の影響で、多くのイベント等が中止等を余儀なくされたが、開催された行事等には参加し、市教育行政について理解を深めることができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
教育委員としての資質・能力の向上	全国及び県で開催される研修会等へ参加し、教育委員としての資質・能力の向上を図る。	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの研修会等が中止となったが、次の研修会には参加した。 (奈良県市町村教育委員会研修大会)	A 新型コロナウイルス感染症の影響により一部の研修会が中止となったものの、教育委員各個人において研鑽を積み、能力向上に努めた。
各種教育機関との連携	教育委員会が設置する附属機関や教育関係機関・団体等の活用・連携により、多種多様な教育課題に的確に対応する。	附属機関の活用や教育関係団体との連携を図った。 (社会教育委員、スポーツ推進審議会、子ども・子育て会議、市史編さん委員会)	A 例年同様、多種多様な教育課題に附属機関の活用などの的確な対応を行うとともに、教育関係機関との積極的な連携に努めることができた。
総合教育会議の開催(会議は市長が主催)	ICT教育や小中一貫教育をはじめとする教育環境の充実について、市長と協議を行う。	2回の総合教育会議において「生駒市立幼稚園、小・中学校の再編に係る方向性について」を協議した。	A 生駒市立幼稚園、小・中学校のあり方に関する基本的な考え方に基づき、地域協議会から出された意見書を受け、方向性を協議した。
教育大綱アクションプランの策定	大綱の基本理念及び基本方針を実現するため、具体的な施策・事業を掲げたアクションプランを策定し、PDCAサイクルに基づく実効性のある取組を推進する。	令和2年6月に策定された第2次生駒市教育大綱に基づき、令和3年度アクションプランを策定した。	A 生駒市教育大綱に基づくアクションプランを策定し、PDCAサイクルに基づく施策・事業の推進を行うことができ、事業の重点化、実効性担保などを図る一助となっている。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

第2次生駒市教育大綱に基づく、新たな事業や施策を展開していくとともに、常に事業等の検証を行い、次年度以降の取組に活かしていく。
また、総合教育会議での市長との協議も踏まえつつ、教育委員会としての市の教育のさらなる発展に向けた方向性を見出していく。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育大綱に基づく施策・事業

基本方針１ 子育てを楽しめる地域づくり

1 保護者支援の場・コミュニティづくり

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和３年度の取組/設定目標	
子ども家庭 総合支援拠点の充実	子育て家庭と妊産婦等を支援するため、関係機関と連携し支援することにより、虐待の未然防止・早期発見に努める。	・拠点に必要な専門職の配置による相談体制の充実（１名増） ・生駒市要保護児童対策地域協議会の運営（個別ケース検討会議：３２２回／実務者会議：２４回／代表者会議：１回）	A 拠点の人員を確保し、その担当者に必要な研修を受講させることにより、相談体制の充実に努めた。 また、相談などに対応する際は、例えば、健康課において妊娠届時に心配であると判断された妊婦について、出産までや出産後の支援方針をその家庭に関係する機関で集まって話し合い、その家庭の状況に沿った支援計画を立て、それぞれの機関が必要な支援を家庭に入れていくなど、関係機関と連携し総合調整を行うことで、妊娠期から子育て家庭への切れ目ない支援を行った。
		・拠点に必要な専門職の配置及び相談体制の充実 ・生駒市要保護児童対策地域協議会の運営	
		・ファミリー・サポート事業の周知 ・子育てシェアの交流会の開催、及び事業周知のサポート	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
地域で支え合う子育ての推進	・ファミリー・サポート事業の周知を図り、子育てを地域で支え合うためのコミュニティを構築する。 ・子育てシェアを広げるための地域交流会の開催、及び地元ママサポーターや会員による子育てシェアの拡大をサポートする。	【ファミリーサポート】 依頼会員：640人 援助会員：138人 両方会員：40人 合計818人 活動件数2,264件 【子育てシェア】 シェアコンシェルジュ（ママサポーター）：5人 登録者数：354人 ・交流会：3回 ・ファミリー・サポート事業の周知 ・子育てシェアの交流会の開催、及び事業周知のサポート	【ファミリーサポート】産前産後のサポート等、連続したサポートが増え、活動回数が増加した。またコロナ禍における在宅ワークの増加により、自宅での見守りといった、依頼内容にも変化があった。 A 【子育てシェア】感染状況に合わせオンライン中心し交流会を実施した他、周知の促進により、シェアコンシェルジュが5人となった。
男性の育児を促す取組の推進	父親が育児を自らのことと捉えられるよう、父親の子育てを後押しする事業を実施する。	【開催回数】 ・パパセミナー 2期各4回 計8回 （感染防止により3期目は1回のみ開催） 参加組数：15組 （対象：第1子と父母） ・夫婦で聞く前向き子育てセミナー 参加組数：12組 ・パパセミナー/3期 ・夫婦で聞く前向き子育てセミナー/1回 ・Papa'sみっきランドの開催	【パパセミナー】感染防止のため内1期は1回のみ開催となったが、講座修了後も参加者同士の交流が継続する様子が見られるなど、家族ぐるみの繋がりが見られた。 A 【夫婦で聞く前向き子育てセミナー】「他の家族も同じ様な悩みがあることを知った」、「子どもの育て方に疑問があったが、分かりやすく実践してみようと思えた」、などの前向きな感想がみられた。 【Papa'sみっきランド】生駒市独自の「感染拡大緊急警報」発令のため中止。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
待機児童解消に向けた 取組の推進	令和6年度までの待 機児童解消に向け、 小規模保育所の新 設、保育人材確保、保 育コンシェルジュ相 談事業を実施する。	・小規模保育事業者の 公募を実施し、令和 4年4月から「サン ライズキッズ保育園 生駒園」を開園した。 ・保育コンシェルジュ による出前相談会 を実施した。 ・あいづ生駒保育園の 大規模修繕を行い、 9人定員を増やした。 R3 年度末の待機 児童数18人（新カ ウント方式）	・小規模保育所開 園により、12 人の定員増とな った。 ・保育人材確保事 業により、公私 立園合わせて7 人の保育士を雇 用することがで きた。 ・条例改正し公立 園の保育補助員 を新設して、1 人を雇用するこ とができた。 ・コロナ禍でも工 夫することによ り相談件数が6 43件（令和2 年度比131件 増）となりサポ ート体制が浸透 している。
		・小規模保育所の公 募等、地域型保育 事業の推進 ・保育士確保事業の 実施 / 待機児童数：108 人（旧カウント方式） ※R2.10月から保育所等 利用の実質待機児童数の カウント方法を見直した。 （新カウント方式） 6園以上を希望して入所 が決まらなかった児童数 （旧カウント方式） 2園以上を希望して入所 が決まらなかった児童数	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
地域子育て 支援拠点事業	乳幼児及びその保護者の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う。	利用人数：23,866人 年間を通して、市内10か所で事業実施/利用人数：47,067人	A 生駒市独自の「感染拡大緊急警報」発令期間中は、市内の拠点が閉所されたが、感染拡大防止に努めながら、年間を通して開所した。（警報発令時は定員を減らして実施）感染への不安や、「孤育て」に対するストレス、夫の在宅ワークのへの配慮により、外出を余儀なくされたりと、コロナ禍における拠点の必要性が認められる。
学童保育の 充実	増加する学童保育需要に対応するため、生駒市学童保育運営協議会が運営する学童保育所の環境整備、指導員確保などによる体制づくりに取組むとともに、新たなニーズに応えるため、民間事業者による学童保育事業を促進する。	民間事業者の公募を実施し、令和4年4月「東生駒放課後児童クラブ」が開設した。 ・民間事業者参入を図るための公募 ・運営協議会に対する支援 ・民間事業者に対する支援 / 民間学童保育所数：6か所	A ・学童児の受入強化と分散、また、民間事業者の特性を活かした運営が図れ、放課後の子どもたちの過ごし方について、多様化するニーズに対応した学童保育を提供することができた。 ・運営協議会及び民間学童保育所に対し、助成金を交付した。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
家庭・学校・ 地域が連携 した家庭教 育の支援	子育ての不安解消や 地域でのつながりづ くりなどを目的に、 地域で子育て支援等 に関わる市民との協 働により立ち上げた 生駒市家庭教育支援 チーム「たけのこ」を 中心に、学校園など との連携のもと親子 や保護者を対象とし た交流事業や家庭教 育に関する情報発信 などに取り組む。	・「たけのこ通信」の 発行(1回) ・チームメンバーによ る市内全小学校・幼 稚園の訪問 ・啓発チラシを市内 幼・保・こども園新 入園児家庭に配布 ・チームのメンバーを 対象にファシリテー ション研修を実施 家庭教育支援チーム 「たけのこ」による 取組の実施	A コロナ禍の影響で 交流事業は実施 できなかったが、 昨年引き続き 情報発信やチー ム力の向上のた めの取組を行っ たほか、メンバー による市内学校 園との連携強化 のための訪問活 動を行うなど今後 の活動再開に向 けた取組を進め ることができた。

【評価による課題】

小規模保育所等の新設、保育士の就労促進のための事業を行うほか、保育コンシェルジュによる相談業務などにより、入所児童数の増加に取り組んでいるが、定員受け入れまでの保育士の確保は難しい。その結果、待機児童解消には至っていない状況である。

民間学童開設には、場所の確保が課題である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

令和3年度に小規模保育事業に選定された事業者が、令和4年4月1日から運営を開始したため、12人の定員増になった。待機児童解消に向け、今後も継続して小規模保育所等の新設や保育人材の確保に取り組む。

令和3年度に民間学童保育所に選定された事業者が、令和4年4月1日から運営を開始した。今後も継続して、学童保育の多様性を確保するために、民間学童保育所の開設に取り組む。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

生駒市学童保育運営協議会が運営する学童施設の在籍児童数

(令和3.10.1時点) (単位:人)

小学校名	学童名	児童数	小学校名	学童名	児童数
生駒北小	生駒北学童	19	桜ヶ丘小	桜ヶ丘1学童	62
鹿ノ台小	鹿ノ台1学童	73		桜ヶ丘2学童	58
	鹿ノ台2学童	68		桜ヶ丘3学童	64
真弓小	真弓1学童	67	生駒小	生駒1学童	59
	真弓2学童	65		生駒2学童	57
あすか野小	あすか野1学童	66		生駒3学童	59
	あすか野2学童	65	生駒東小	生駒東1学童	67
	あすか野3学童	64		生駒東2学童	55
	あすか野4学童	60	壺分小	壺分1学童	48
生駒台小	生駒台1学童	74		壺分2学童	49
	生駒台2学童	74		壺分3学童	50
俵口小	俵口1学童	56	生駒南小	生駒南A学童	45
	俵口2学童	58		生駒南B学童	47
			生駒南第二小	生駒南第二学童	41
			計		1,570

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ保幼小接続事業	保育所と幼稚園の学びを連続性・一貫性のある教育として小学校へつなぐ。	生駒市保幼小接続推進会議を3回開催し、年度末に一年間の取組を報告書にまとめ各校園に配布した。	A 目標通り生駒市保幼小接続推進会議を3回開催。2回目には、子どもの育ちや学びのつながりを共有するワークショップを実施し、職種によっての考え方や子どもの見方の違いを認識・理解し、相互に視野を広げることができた。
		・推進会議実施 ・園児及び職員間交流の計画と実施 /保幼小推進接続会議の開催回数:3回	
保護者・地域と連携した特色ある幼稚園運営の取組	「遊び」を「学び」をつなぐ幼児教育を可視化し、保護者・地域の市民力を保育に取り入れ、特色ある幼稚園運営を行う。	・写真、動画を利用し「遊び」を「学び」への視点で幼児教育における保育活動を分析する研修を実施し、認識を深めた。 ・感染対策を講じて、保護者ボランティア、地域ボランティアの活動を進めた。	A ・職員研修で写真や動画を積極的に取り入れ、保育活動の分析を行った。 ・「学びに向かう力等」を写真や動画で可視化し、保護者にわかりやすく示すことができた。 ・コロナ禍ではあったが、安全対策を講じながら状況に応じて保護者や地域の力を取り入れボランティア活動などに取り組み目標回数を達成できた。
		・保育を可視化し、分析する職員研修の実施 ・教育目標を発信し、保護者・地域の保育参加を実施 /保護者・地域との協働回数:6回	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
公立幼稚園 のあり方に関 する検討事業	令和2年2月に答申 を受けた「今後の生 駒市立幼稚園のあり 方について」を踏ま え、幼稚園のこども 園化の実現性や園規 模の適正化に向けた 検討を進めていく。	・各地域で地域協議 会を開催し、意見書 を取りまとめた。 ・協議会からの意見 書を踏まえ、教育委 員会、総合教育会 議で方向性を決定 した。 ・地域協議会の開催 ・協議会からの意見 書を踏まえた方向 性の検討	A 再編の対象となっ た園の地域協議 会で、今後の方向 性についての協 議を行い意見書 が作成された。提 出された意見書 を受け、教育委員 会としての今後の 方向性を策定で きた。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
市立幼稚園 における預 かり保育の 実施	子育て支援の一環と して、預かり保育・長 時間預かり保育を実 施する。	預かり保育利用者数 〔市立6幼稚園〕 のべ10,177人 〔認定こども園生駒幼 稚園、南こども園1号認 定児〕 ・早朝・延長預かり保育 のべ 1,112人 通常預かり保育 のべ 2,859人	A 今年度から始まっ た長期休業中の 預かり保育にお いて、利用者も多 く、子育て支援の 役割を果たすこ うができた。
生駒幼稚園 こども園移 行事業	子育て環境の充実を 図るため、生駒幼稚 園を幼稚園型認定こ ども園に移行する。	預かり保育利用者数 (1号認定児) のべ2,004人	A 保護者の就労によ り、前年度に比べ 、利用者が増えた。
特別支援教 育の充実	4、5歳児クラスに特 別支援介助講師を配 置する。	加配申請児 63名	A 特別支援加配を 必要とする園児3 人に1人の加配教 諭を配置し、一人 一人の特性に応 じてきめ細かい支 援を行うことがで きた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
幼稚園・保育 所教員研修 の実施	更なる就学前教育環境の充実を図るため、職員の資質向上につながる研修を実施する。	新規採用職員研修、 中堅教員研修、常勤 講師・保育士合同研 修 幼稚園・保育園交流 学習会 年間計7回	A コロナ禍において、対策を講じながら実施し、学びの機会を確保することができた。

【評価による課題】

コロナ禍でもオンライン研修の受講を増やすなど、職員の資質向上の機会を確保することが必要である。

幼稚園における長期休業中の預かり保育の利用者増加に対応するためには、幼稚園教諭の確保が必要である。また、全市的な待機児童解消のためには、保育士の確保が必要である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

小規模保育所等の公募について、事業者幅広く周知を図るとともに、民間保育所が施設整備を行う際に支援できるように、国及び県からの補助金の確保に努める。

< 参考データ >

市立幼稚園園児数（令和3.5.1時点）（単位：人）

3歳児	4歳児	5歳児	合計
211	199	264	674

市立保育所園児数（令和3.5.1時点）（単位：人）

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
24	60	106	141	137	138	606

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針 2 21 世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり

1 「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」の推進

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度) の推進	学校と地域住民等が力を合わせて子どもたちの成長を育むため、地域住民等が学校運営に取り組むことが可能となる学校運営協議会を各小・中学校に設置し、地域とともにある、地域に開かれた学校を推進する。地域の現実に即した当事者能力を子どもたちに育むため、学校運営協議会によるカリキュラムの提案も歓迎する。	学校運営協議会を市内全小中学校に設置し、カリキュラムの提案も歓迎するという方針で協議を行った。 / 学校運営協議会設置校数：19校、学校運営協議会の開催回数：56回	A 市内全小中学校に学校運営協議会を設置し、本格的に地域学校協働活動が始まった。地域ぐるみ連絡協議会で3校が発表し1年間の取組を共有した。
		学校運営協議会を全小中学校に設置、開催 / 学校運営協議会設置校数：全校 学校運営協議会の開催回数：38回	

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
積極的な情報公開と学校評価の実施	学校評価を実施・公表し、改善点を明確にするなど、更なる学校経営の充実を図るとともに、ホームページでの情報掲載など、積極的な情報公開による開かれた学校づくりを推進する。	・3校で1日学校訪問を実施した。 ・学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施した。	A 学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施し、ホームページや学校だよりでの情報公開を実施できた。
学校創造推進事業	保護者や地域住民との連携のもとで様々な取組を実施し、信頼され、開かれた学校づくりを進める。	地域の方々との交流の機会や命を守るための教育活動を充実するなど、各校で特色のある教育活動を実施した。 実施回数：1,172回	A 特色のある教育活動を推進することにより、信頼され、開かれた学校づくりを進めることができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
安全教育の 推進	学校安全教育の実施 や迅速な不審者情報 の提供など安全教育 委を推進する。	各校からの不審者情 報をもとに、子ども 安全メールへの掲載 を希望される事象に 対して、登録者に対 してメールを配信し た。年間で39回配信 し、情報を周知した。	A 保護者や地域の方 に子ども安全メー ルを活用し、いち 早く不審者情報 を伝えることで、 子どもを見守る ための意識の 向上や犯罪抑止 に努めた。
スクールボ ランティア プログラム・ 学びのサポ ーター派遣 事業	地域住民がスクール ボランティア、市内 の大学生が学びのサ ポーターとして、学 校運営に協力し、学 校教育の充実を図る。	スクールボランティ アと協力し、学校教 育の充実を図った。 また、学びのサポー ターを年間348日間 、小学校中学校に配 置した。	A 学びのサポーター を各小中学校へ 派遣することによ り、学校の取り組 みを支援し学校 教育の充実を図 った。

【評価による課題】

市内全小中学校に学校運営協議会を設置されコミュニティ・スクールが始まった。各地域での取組が共有され、地域と学校が連携した活動をさらに推進していくことが課題である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

令和3年度の取り組みを共有するとともに、学校間でも情報を共有しながら、コミュニティ・スクールとして、地域に開かれた学校を推進していく。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 ICT 機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
GIGA スクール構想をはじめとした令和の日本型教育の実証事業	GIGA スクール構想に基づき配備された児童生徒1人1台のPC 端末を効果的に利用することにより、ICT を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による新しい学びの形をいこまモデルとして提案し、日常的な指導において日々改善を図ることで効果を定着させる。	・AI 学習ドリルを用いた個別最適な学びの検証として小・中1校ずつモデル校を選定し、実証を行った。 ・協働的な学びの推進として、オンラインを活用した研修や、授業の提案を行った。 ・SDGs をテーマとした探究学習として、1人1台のPC 端末を活用しながら南第二小や生駒小で地域や大学、団体等と協働した取組を実施した。	A AI 学習ドリルについては、年度途中での実証開始であったので、効果の検証には至っていない。 令和4年度は引き続き活用を進める中で効果の検証を行う必要がある。 端末の日常的な活用が進むように研修を行った。
ICT を活用した教育の推進	全小中学校に児童生徒1人1台整備された情報端末を生かした学習指導計画を立案し、日常的学習活動に位置づけることで、学習内容理解の充実を図るとともに、ICT を活用した新しい学習形態を実現する。	・事業内容の検討及びモデル校の選定 ・実施結果を踏まえた検証・メニュー化等の検討	
		・児童生徒に1人1台のPC 端末を活用した取組や学習を推進した /活用報告事例数：412件 ・情報端末を活用した授業の展開 /活用報告事例数：192件	A 1人1台のPC 端末が整備されたことで、コロナ禍でのオンライン学習やジャムボードやロイロノートを使用した協働学習が進み、思考の共有化を図れるなど授業の質を充実させることができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
ICT 活用教育 リーダー 育成研修の 実施	校務処理や教材開発 などに係る高度な I C T スキルを身に付けた教員を育成することで、学校における I C T 利用の日常化を図るとともに、指導場面における効果的な I C T 利用の形態を提案し、実証することのできる教員の育成を図る。	ICT 活用教育リー ダー育成研修の実施 /研修の実施回数：5 回	A オンラインで実 施することによ り昨年度より多 くの研修を開催 できた。リーダー 研修をした内容 を各校でも研修 を開くことで、 ICT 活用におけ る教員の質を高 めたり、業務など の平準化を図る ことができた。
		ICT 活用教育リー ダー育成研修の実施 /研修の実施回数：5 回	
プログラミ ング教育の 推進	小学校の学習活動 の中でプログラミング 的思考の育成を各教 科等の授業で進めて いくため、「プログラ ミング教育推進計 画」を策定し、プログ ラミング教育を実施 する。	プログラミング教育 実施の推進 /1校当たりの平均授 業時間数：24時間	B コロナ禍において 児童生徒が登校 できない期間が あり、各教科の授 業時間を確保す るため、予定して いた時間数よりも 少なくなった。
		・プログラミング教育 推進計画の策定 ・授業実施 1～4年：4h 5・6年：8h /1校当たりの平均授 業時間数：32時間	
ICT 活用教 育支援事業	全小中学校に児童生 徒1人1台整備した P C 端末を、授業等 で円滑に活用するた め、ICT 支援員を配 置する。	令和3年10月から業 務委託契約を締結 し、小中学校19校に 1名ずつICT支援員 を週1回配置した。	A 2学期から、全小 中学校にICT支 援員を配置し、児 童生徒1人1台 整備したP C 端 末を、授業等で円 滑に活用できる よう支援体制を 整えることがで きた。
		・小中学校19校に支 援員を週1回配置 ・各校のニーズ等を 踏まえ、ICT 支援 員の配置について の検証 /ICT支援員配置回 数：週1回	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
小・中学校の あり方検討 事業	令和2年2月に答申 を受けた「今後の生 駒市立小・中学校の あり方について」を 踏まえ、学校規模の 適正化に向けた検討 を進めていく。	地域協議会を南小で 3回、南第二小で5 回実施し各地域協議 会からの意見書の提 出があり、それを受 け教育委員会が方向 性を決定した。	A 再編の対象となっ た校区において、 地域協議会で、今 後の方向性につ いての協議を行 い意見書が作成 され、それを受 け、教育委員会と しての小・中学校 の今後の方向性 を策定できた。
		・地域協議会の開催 ・協議会からの意見 書を踏まえた方向 性の検討	
中学校トイレ 改修事業	老朽化が顕著である 全中学校の校舎のト イレ改修(洋式化・乾 式化)を順次行い、生 徒の日常的な学校環 境を改善する。	緑ヶ丘・大瀬中学校 のトイレ改修工事が 完了した。	S 国の補助金採択 を受け、予定を前 倒しして令和2年 度に設計、工事発 注・契約を締結し たことで令和3年 度に改修工事を 完了し、学校環境 の改善ができた。
		工事 /改修実施校累計 数:7校	
学校給食セ ンター整備 事業	中学校給食センター の老朽化に伴う施設 の改修と更新	令和3年6月22日 から令和4年9月3 0日までの2カ年事 業を、令和3年6月 22日に契約締結し 着手した。工事施工 は給食準備期間に実 施し、給食提供を中 止することなく実施 できた。	B 令和3年度予定 の屋根改修とボ イラー改修にお いて、工事材料の 納品が一部間に 合わなかったた め、令和4年度に 実施予定となっ た。
		工事	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

新型コロナウイルス感染症の対応として、1人1台のPC端末を活用したオンライン授業や、日常の学習でもICTを活用した取組を進めることができたが、普段からの端末の持ち帰りを徹底していく必要がある。また、研修等による職員の能力育成をさらにしていく必要がある。
 学校施設の多くは老朽化の課題を抱えており、学校運営にも支障が生じかねないことから、計画的な大規模改修を行っていく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

教員のICT活用能力の向上については、今後県とも連携しながら、研修を行っていくとともに、ICT活用に関する事例等を積極的に周知していく。
 施設の老朽化については、財政負担も考慮しつつ、計画的に実施できるよう長期的な視点に立って実施していく。

学校給食の実施状況 (単位：回、円)

	実施回数	給食費(月額)
小学校	165	4,400
中学校	152	4,800

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
自殺対策推進事業	平成31年3月に策定した「生駒市自殺対策計画」に基づき、「SOSの出し方に関する教育」の研修を実施する。そして児童生徒の心身の状況の把握や児童生徒への相談窓口の周知徹底を行い、スクールカウンセラー等の活用を実施する。	・養護教諭・生徒指導主任対象の研修会を開催した。 ・全校(19校)にて職員研修を開催した。 /研修回数:20回	A 児童生徒の自殺の現状や、自殺に至る要因などを学び、児童生徒の自死に対しての学校の危機感を高めることができた。また、教員がカウンセリングマインドを身につけることの重要性や、自傷行為を行う児童生徒に対する対処法などを学び、学校としてできる対応への理解が浸透した。
ICT機器を安全に活用するための情報モラル教育の推進	情報社会における安全やルールを児童生徒が主体的に考え、正しく理解し行動するための情報モラルを育成する。	ICT支援員を活用した教員向け、児童生徒向け研修を実施した。 児童生徒が主体的に考え、正しく行動するためのルール作りの実施	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
いじめ防止 等の施策推進	平成29年3月に策 定した「生駒市いじ め防止基本方針」に 基づき、いじめ防止、 早期発見につながる 取組を推進する。	生駒市いじめ問題対 策連絡協議会を2回 開催(2回目は書面 開催)した。	A 令和3年度は、 「SNS を利用し たいじめにどのよ うに対応していく か」、「児童生徒 の自殺防止の取 組」を主なテーマ にして議論を行っ た。また、協議会 で頂いた意見を もとに、「生駒市 いじめ防止基本 方針」の改訂を行 った。
		生駒市いじめ問題対 策連絡協議会の開催 /開催回数:2回	
特別支援教 育の充実	特別支援学級在籍児 童生徒の学習支援、 機能回復のための環 境及び体制の充実を 図る。	特別支援教育相談を 80件おこなった。	A 特別支援学級在 籍児童生徒や通 常学級に在籍し 特別な支援を必 要とする児童生 徒及びその保護 者・教師に対する 教育相談を、専門 知識を有する者 で相談を受ける 体制を整えた。
		特別支援教育相談の 実施 /特別支援教育相談 日数:33日	

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
特別支援教 育支援員の 配置	介助や指導補助、学習 補助等を行う特別支 援教育支援員を各校 に配置する。	特別支援教育支援員 を平均で各校週6日 分配することがで きた。	A 各校に就学指導 委員が調査を実 施。各校の実情に 合わせて支援員 を配置し、きめ細 やかな教育支援 をすることが可 能となった。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー、 スクールアドバイザーズの活用	スクールカウンセラー等を活用し、いじめ問題等の早期解決や教育相談などの体制充実を図る。	市費 SC の配置時間を大幅に増加し、中学校で週に 1 回、小学校で月に 1.5 回、1 回 4 時間の活用を行った。SSW は週に 1 回教育支援施設に配置し、学校の要請に応じて派遣を行った。スクールアドバイザーズは必要に応じて意見をいただいた。	A SC、SSW、スクールアドバイザーズの活用を通して、学校、児童生徒、教員及び保護者に対する指導・助言・支援を行い、学校のカウンセリング機能や教育相談体制の充実を図ることができ、より多くの相談への対応が可能となった。
教育相談の実施	教育相談員やスクールカウンセラーなどの専門家を活用し、教育相談を行える環境を整備する。	5 名の相談員とカウンセラーなどで教育相談を実施。相談件数：1,774 件	A 不登校に関する相談が 1,505 件と全体の約 85% あり、不登校初期の段階での適切な対応により長期欠席の防止に効果をあげることができた。また、不登校に悩む中学生に対して、学校以外の居場所づくりとして、生駒市適応指導教室「いきいきほっとルーム」を紹介し、入級につなげた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
ことばの教室・通級指導教室エルの運営	読み書きやコミュニケーションなどで困っている幼児や児童を支援するために設置していることばの教室・通級指導教室を運営する。	ことばの教室・通級指導教室エルへの通級者数は164人であった。	A 幼児、児童生徒の障がいの重複化や多様化、一人一人の教育的ニーズに応じた教育支援を実施することができた。
適応指導教室の運営	心理的あるいは情緒的な原因等により登校できない児童生徒を対象に設置している適応指導教室を運営し、学校生活への復帰を支援する。	心理的あるいは情緒的な原因などにより登校できない児童生徒に支援を実施。	A 教育相談室への相談を経て、心理的あるいは情緒的な原因などにより登校できない児童生徒への居場所づくり、無理のない形での学校復帰を支援することができた。(令和3年度は33名が在籍)

【評価による課題】

いじめ防止等に向けた学校づくりを進める中で、教員が児童生徒の出す信号に対して素早く適切に対応することが必要となる。また、特別支援教育支援員を各校に配置しているが、支援を必要とする児童生徒が増加しているため、特別支援教育支援員や学びのサポーターによる支援体制の強化と共に、発達障害の特性を教員で共有し合い、通常の授業の中でも支援の行き届いたユニバーサルデザインの授業について研修していく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

いじめ防止等に向けた学校づくりを進めるとともに、6月を「いじめ防止月間」とし、取組を強化する。特別支援教育相談、就学前教育相談による個別相談の充実を図り、発達障害等、特別な支援を要する児童生徒に対し、特別支援教育支援員や学びのサポーターによる学習や活動の支援を実施し、児童生徒、保護者、指導者に対する支援・相談体制を推進する。また、特別支援教育に関して、個別の支援計画作成の研修やユニバーサルデザインの授業に関する研修を実施し、学校での児童生徒への合理的配慮や支援体制の充実に向けた取組を進める。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

4 主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心の育成

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
読書活動・学校図書館の充実	現在、小中学校すべてに学校司書を配置しており、一定の効果が得られているが、さらに読書を通じて豊かな人間性を育むため、学校司書の配置を拡充する。	・小中学校に週3日学校司書を配置。 ・12/23 ビブリオバトル開催1回 ・学校司書を全小中学校に配置 ・ビブリオバトル市内中学生大会の実施 / 学校司書配置日数：週3日・市内中学生ビブリオバトル開催数：1回	A 学校司書と司書教諭が連携し、図書館の環境整備や図書に関するイベントの開催により、児童生徒の読書意欲を向上することができた。また、中学生対象にビブリオバトルを開催した。
社会に開かれた学校教育推進事業	あこがれいこまびと講演事業、学校教育創造推進事業、キャリア教育プランナーとの連携事業による、地域出身の文化人、スポーツ関係者、事業者等、社会で活躍されている方の講演等を通して、児童生徒が郷土愛を持ち、自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って将来社会で活躍できる人材を育成する。	・あこがれいこまびと講演事業では、3校で6事業を実施。 ・キャリア教育プランナーとの連携事業47回 / あこがれいこまびと講演事業、学校教育創造推進事業、キャリア教育プランナーとの連携事業の実施 / キャリア教育プランナーとの連携事業実施回数：15回	A ・あこがれいこまびと講演事業では、地域出身の方の講演等を通して児童生徒の郷土愛を育むとともに将来の自分のあり方に関心を持たせることができた。 ・キャリア教育プランナーについては、社会に開かれた教育課程を実施すべく、学校からのニーズに応じたハンズオン支援を行った。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
部活動支援 事業	中学校において、専門的な技術指導力を備えた指導者が不在の部に対し、地域の適切な人材を外部指導者として派遣し、部顧問と協力して指導・助言を行わせることにより、部活動を充実させる。	バレーボール、ソフトボール、陸上、バスケットボール、ハンドボール、柔道、テニス、吹奏楽、茶道など、専門的な技術指導力を備えた外部指導者を8校に派遣。部活動指導員実施時間数：1235時間 中学校に外部指導者を配置 /部活動指導員配置時間数：1440時間	A 専門的な技術指導力を備えた指導者が不在で、学校長が必要と認めた部活動に対して、外部指導者を派遣できた。コロナ禍で部活動自体の実施時間数が減ったため、指導員の配置時間も減少したが、今後部活動の地域移行が本格化していく中、地域指導員を確保する意味でも、前年度よりも多くの指導員を任用できたことには大きな意味があった。
生駒こども チャレンジ 補助事業	学校の各種コンテスト等に挑戦するために必要となる経費等を補助する制度を創設し、児童生徒の創造性を培い、達成感を味わうとともに、自己肯定感を高める。	1校がロボットコンテストに参加。 生駒こどもチャレンジ補助事業の継続実施 /実施学校数：1校	A コンテストに参加し、チームで協力することを通して、達成感を味わうことができた。
チャレンジ！やさしくたくましいこまっ子キャンプ	既存の自然体験学習のメニューとして防災キャンプを加え、児童の防災意識を高め、命を守ることの大切さを再認識し、災害発生時に自分の命を守る行動を身につける。	11校で防災プログラムを実施。 各小中学校の判断に基づくいこまっ子キャンプの実施 /実施学校数：12校	A 自然と向き合った防災体験活動を取り入れることで、児童生徒の「生きる力」を育むことができた。コロナ禍のため1校未実施。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
小学校1年生30人程度学級の実施	本市独自の取組として、学校教育の充実を図るため、小学校1年生30人程度学級を実施する。	全小学校において30人程度学級を実施することで、小学校1年生に対して、きめ細かい指導を行った。	A 国の少人数学級の実現として、段階的に35人学級が実施されることとなり、2年生までは、35人学級になっているが、1年生については、引き続きすべての学校において達成することができた。
伝え合う力 育成事業	豊かな人間性を育むため、読書活動を推進し、各校に学校司書を配置する。	全ての小中学校に週3日、学校司書を配置した。	A 学校司書と司書教諭が連携し、図書館の環境整備や図書に関するイベントの開催により、児童生徒の読書意欲を向上することができた。
奈良先端科学技術大学院大学と連携した授業の実施	中学校を対象に奈良先端科学技術大学院大学の講師等を招き、授業を行うことで学ぶことの興味・関心を高める。	光や分子、生物などをテーマにした出前授業を8校で実施。授業を受けた生徒の9割が授業は興味深い内容であったと回答した。	A 理科離れが進む中、学校では体験できない最先端の科学に触れることで、理科学習への興味・関心を高めることができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

平成 26 年 3 月に生駒市が環境モデル都市に選出されて以来、全小中学校で環境教育を推進しているために、各校での取組が一定の成果を上げ続けている。また、地域の外部指導者の指導により、専門的な知識を学びつつ郷土への愛着を感じるきっかけとなっている。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

部活動への外部指導者の派遣や地域出身者の講演会を実施し、児童生徒が未来への夢を創造できる取組を今後も推進していく。

< 参考データ >

市立小・中学校 児童生徒数（令和 3.5.1 時点）（単位：クラス、人）

小学校名	クラス数	児童数
生駒	28	613
生駒南	18	397
生駒北	10	148
生駒台	31	743
生駒東	22	522
真弓	26	681
俵口	19	466
鹿ノ台	23	570
桜ヶ丘	26	693
あすか野	37	966
壱分	30	766
生駒南第二	10	192
合 計	280	6,757

中学校名	クラス数	児童数
生駒	18	559
生駒南	8	168
生駒北	5	77
緑ヶ丘	17	523
鹿ノ台	11	262
上	22	658
光明	15	413
大瀬	18	516
合 計	114	3,176

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

5 「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
教職員がい きいきと子 どもと向き 合う時間創 造プログラ ムの推進	教職員が健康でい きいきとやりがいをも って働ける環境整備 を行い、教職員が授 業や教材研究等に集 中し、ゆとりをもっ て子どもたちと向き 合う時間の拡充を図 る。	市内17校にスク ールサポートスタッフを 配置した。 ・スクールサポートス タッフの全校配置 ・校務支援システム の運用 ・給食費徴収システ ムの導入	B スクールサポ ート スタッフを配置す ることで、教職員 の働き方改革に 貢献し、勤務時間 の削減を行うこと ができた。 全校配置できるよ うに取組を進め る。
グローバ ル時代に対 応した外国 語教育の推 進	小学校1年生から英 語の楽しさを感じら れる取組を行い、小 中学校9年間を通し た系統的な英語教育 カリキュラムを実施 する。	年間小学校1・2年生 で10時間程度、小 学校3・4年生で35 時間外国語活動を行 い、小学校5・6年生 で70時間外国語(英 語)を実施。 年間小学校1・2年生 で10時間程度、小 学校3・4年生で35時 間英語活動、小学校 5・6年生で70時間 英語を実施(ALT、 わくわくイングリッ シュサ ポーターを配置) /全国学力調査より 「①英語の勉強は好 きですか」「②英語 の授業で自分自身 の考えや気持ちを 伝え合うことができ ましたか」の質問に 対して、「当てはま る」「どちらかとい えば当てはまる」と 回答した生徒の割合 小学校6年 ①65.0②65.0 中学校3年 ①58.0②60.0	A 小学校1年生か らALTとともに 楽しみながら外国 語活動を行うこと で、抵抗感がなく なり、英語に対し て慣れ親しむこと ができた。系統的 な英語教育カリキ ュラムを実施する ことにより、英語 の基礎的な力を 身に付けることが できた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
問題発見能力や他者と協働するコミュニケーション能力の育成	21世紀を生き抜く力として、授業において、日常の疑問を発見する力やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、必要となる教職員の能力育成のための研修を強化する。	新型コロナウイルス感染症に伴う対応で、夏期休業中の研修の実施方法を変更して行った。参加人数:253人 教職員のファシリテーション能力の育成のための研修開催/生駒市教育研修会参加者数:300人	A 新型コロナウイルス感染症対策で、時期を変更したり、実施方法をオンラインに変更したりして開催した。

【評価による課題】

スクールサポートスタッフの勤務により、教職員の勤務時間が削減されたが、市内すべての学校に配置されていない。全ての学校にスクールサポートスタッフを配置する必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

市内全ての学校にスクールサポートスタッフを配置し、教職員の働き方改革を進めていく。スクールサポートスタッフの研修を行い、業務内容の共有を図る。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり

1 すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材活用	「IKOMA サマーセミナー」など、様々な特技や専門知識等を持った市民自身が先生となって、市民への学びや体験の場を提供するとともに、市民が活躍する機会とする。また、このような場づくりを市民が主体となって継続的に取り組み、さらに発展していけるよう支援することで、生駒の誇る「市民力」をさらに引き出し、市民のスキルやアイデアを活かしたまちづくりにつなげる。	「IKOMA サマーセミナー2021」 実行委員数:10人 開催日:令和3年8月1日(オンライン) 講座数:17講座 閲覧数:2,066回 (令和3.12.1時点) 市民主体の実行委員会による開催・運営/IKOMA サマーセミナー実行委員数:12人	A 実行委員会が主体となり、コロナ禍に対応したYouTubeによる動画配信形式で開催した。昨年度よりも2講座増え、多くの視聴数を得て市民の学びと活躍の機会とすることができた。今後も講師や運営など本イベントに携わる人材の拡充を図り、さらなる事業の充実と円滑な実施につなげる。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
高齢者の学びへの意欲向上と、学びを「行動」につなげる仕組みづくり	「いこま寿大学」の内容を充実させ、高齢者の学習意欲を引き出すとともに、学びの成果をまちづくりにつなげられる人材を発掘、育成する。 また、「寿生駒連絡協議会」(気らくネット)に代表される同大学の卒業生など有志の市民が地域や学校等と連携しながらまちづくりの担い手として活躍する機会を増やしていけるよう支援を行う。	・「ボランティア講座」の開催や「地域学校協働活動」をテーマとした一般教養学習会、具体的なボランティア事例の紹介など新たな要素を取り入れた実務講習会を実施した。 ・気らくネットの活動を各小中学校に紹介し、新たに小学校1校と具体的な活動につなげることができた。 ・社会貢献活動への参加意欲を促す講習会の開設やクラブ学習課程の改善 ・高齢者のニーズや時代の流れを反映するカリキュラムや運営体制等の見直し ・気らくネットによる地域での社会貢献活動の支援	A 学習内容の工夫や新たなテーマで実施することで、社会貢献活動への意識を高めたほか、市内小学校との連携により卒業生の地域での活躍の場を広げることができた。 一方で長引くコロナ禍の影響を受け寿大学の入学者数や学生数が大幅に減少しており、高齢者ニーズを踏まえた学びのあり方を今後検討する必要がある。
困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実	子ども・若者総合相談窓口「ユースネットいこま」を拠点として、様々な困難を抱える子ども・若者が自立した社会生活を送れるよう、「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の有効活用及び関係機関との連携のもと必要な支援を行う。	生駒市子ども・若者支援ネットワークの運営を行い、各関係機関と連携しながら「ユースネットいこま」において相談支援を行った。 ・相談人数 94人 ・進路決定者 8人 ・ユースネットいこまにおける相談支援 ・「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の運営 /ユースネットいこまの相談者数:120人	A コロナの感染防止対策として、引き続きオンライン面談を実施するほか、広報紙への特集記事掲載やポスター掲示、生徒へのチラシ等の配布など広く周知を行うことで、新規の相談につながった。 不登校の相談の増加など、コロナ禍以前に比べ相談の傾向が変化しており、様々な生きづらさに対するきめ細かい支援が必要となっている。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
多様性を認め 合う場の提供	年齢や性別、障がいの 有無や国籍、文化など 個々人の違いや多様 性を認め合う学びや 体験の機会を提供す る。	新型コロナウイルス感 染拡大防止のため中止	B コロナ禍の影響で 開催を見送った。 感染リスクの低減 と事業の目的達 成を両立させた 事業のあり方や 手法を今後検討 する必要がある。
		「ユニバーサルキャンプ in 生駒」の開催 /参加者数:60人	

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
生涯学習施 設の設備の 充実	生涯学習施設の設備 を充実させ、市民サ ービスの向上を図 る。	・たけまるホール通路 屋根防水改修工事 ・新型コロナウイルス 感染対策備品等の 購入、設置	A 施設を安全かつ 快適に利用でき るよう、施設改修 を行った上で、感 染症対策のため の設備・備品の充 実に努めた。
生涯学習施 設の管理運 営	市民の生涯学習の拠 点となる生涯学習施 設を適切に管理運営 し、生涯学習の活性 化につなげる。	生涯学習施設の利用 人数:657,723人	A 新型コロナウイルス 感染拡大による 利用制限等を行 ったが、市民に対 し施設の利用料 金を減免したこと で利用者数は緩 やかに回復し、文 化活動等の利用 促進に寄与した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

コロナ禍における事業の実施にあたっては、感染防止対策を講じるほか、オンラインの活用等により継続的な学びの機会を提供してきたが、コロナ禍による一定の制限により、対面や交流によって得られる効果は十分ではなかった。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

感染状況も落ち着きつつある中、引き続き、感染防止対策への配慮やオンラインを効果的に活用しつつ、内容や実施手法を工夫した学びの機会を提供する。また、学びや交流を通して市民の活躍のきっかけとなるような学びの場づくりを進めていく。

<参考データ>

生涯学習施設の利用者数

(単位：件、人)

	令和3年度		令和2年度	
	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数
たけまるホール	10,358	133,896	7,035	95,203
やまびこホール	51	524	66	584
鹿ノ台ふれあいホール	3,057	35,729	2,067	26,485
生駒市図書館	3,425	59,254	2,317	36,707
生駒市コミュニティセンター	11,317	133,206	5,669	80,600
南コミュニティセンターせせらぎ	7,127	79,680	5,193	63,802
北コミュニティセンターISTA はばたき	11,034	150,263	7,191	88,469
芸術会館美楽来	4,839	65,171	3,498	52,283
合 計	51,208	657,723	33,036	444,133

いこま寿大学の在籍者数等

(単位：クラブ、人)

	クラブ数	在籍者数	入学者数	定員	応募者数	卒業者数
平成30年度	14	753	228	281	246	196
令和元年度	14	753	196	275	202	165
令和2年度	16(※1)	635	83	275	154	130
令和3年度	16	511	84(※2)	275	65	129

(※1) 歴史クラブと健康体操クラブを新設、ハイキングクラブ(自主10km、自主8km)を募集停止とした。

(※2) 令和2年度に願書を提出したがコロナ禍のため入学を見送り、令和3年度に改めて入学した者を含んでいる。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
子ども読書活動の充実	子ども読書活動における家庭・地域・学校の新しい連携づくり	子ども読書会議を2回実施。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため1回中止) 家庭・地域・学校が連携し「トライ！生駒子ども読書会議」を開催/生駒子ども読書会議の開催回数:ワークショップ3回	A ・「トライ！生駒子ども読書会議」では家読推進に取り組んだ。 ・オータムフェスティバルは鹿ノ台小学校で実施し、学校やボランティアの協働のもと52人の親子が参加。
「人を通して人を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル全国大会の開催	図書館が本を通じて語り合う場になるとともに、年齢や地域の枠を超えた全国大会を開催する。	発表者5人 観戦者185人 YouTube(当日93人 総数137人) 計327人。 ビブリオバトル全国大会 in いこまを開催/ビブリオバトル全国大会の参加者数:380人	A コロナ禍におけるオンライン配信等の取組が高く評価され Bibliobattle of the Year 2021を受賞。
市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり	市民との連携や「協創」のもと、人と人をつなぐ事業を行い、新たな文化を創造する「まちづくりのプラットフォーム」となる図書館を目指す。	・未在亭1回、朝活読得会を本館、北分館、駅前図書室で定期的に実施。 ・まちかど図書室21団体。「おはなしの会」出前授業実施(2回)やリサイクル本759冊の提供をした。 ・市民との協働ボランティア数13団体。 市民との「協創」事業の実施 ※移動図書館を導入等による「まちかど図書室事業」の充実 /図書館事業ボランティア団体数:11団体	A コロナ禍のため活発な市民活動は難しかったが、朝活読得会が北分館、駅前図書室で開始。市内イベントにおいて出張図書館を7回実施し、館外での貸出を開始した。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
図書館の運営と充実	図書サービスや利便性の向上を図り、誰もが利用しやすい図書館運営を行う。	市民 1 人あたりの貸出冊数 10.7 冊 市民 1 人あたりの貸出冊数 12.0 冊	B コロナ禍のため目標には届かなかったが、令和 2 年度 9.2 冊から復調した。
子ども読書活動の充実	子どもの健やかな成長の糧となるよう、ブックスタート事業など子どもの読書活動を推進する。	「おはなし会」3,502 人、「絵本の会」867 人参加。ブックスタート事業や、出前授業などを実施。鹿ノ台小学校においてボランティアと学校の協働でオータムフェスティバルを実施。託児事業こあらを試験的に開始。	A コロナ禍で開始が遅れていた託児事業を始めることができた。オータムフェスティバルは、市内 2 校目となり、継続的な活動として定着しつつある。
読書活動ボランティアの育成と協働による事業推進	読書活動ボランティアを育成するとともに、同ボランティアと協働し、読書に触れる環境を整備する。	音訳ボランティア 10 回、学校図書館修理ボランティア 2 回、代読サービスボランティア 6 回の養成講座を実施。宅配サービス 474 回。	A 知的障がい者のための読書支援サービスを行うため、代読ボランティア養成を開始し、次年度への活動に引き継いだ。修理ボランティアは図書館で実習を継続して実施し、学校図書館での活動を開始した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

コロナ禍による図書館利用の減少や市民活動の制限があり、思うような活動ができなかったが、代読ボランティアの養成や、出張図書館の試験的な開始など新しいサービスに取り組むことができた。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

コロナや高齢化のほか、仕事や子育てなど様々な理由によって図書館の利用が難しく、また、社会全体としても読書離れが進んでいることから、図書館職員が地域に出向き気軽に本に親しむ機会を創出していく。また、新規に養成された代読ボランティアと協働し、知的障がい者へのサービスも充実させ、誰もが利用できる開かれた図書館を目指す。

< 参考データ >

図書館蔵書冊数等

(単位：冊、人)

	蔵書冊数	貸出冊数	貸出人数	利用券登録者数
平成29年度	648,088	1,202,428	427,904	58,835
平成30年度	644,138	1,285,801	422,029	55,510
令和元年度	647,236	1,340,657	387,103	52,535
令和2年度	647,638	1,092,327	317,867	49,710
令和3年度	649,712	1,261,633	358,627	47,161

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
『生駒市史』 編さん事業	『生駒市史』編さん事業は、昭和60年に最終巻を発刊し終えたが、その後30年間に行われた発掘調査や古文書調査等の新たな成果が蓄積されている。加えて、生駒市を取り巻く状況は大きく変化してきており、市制50周年を記念して新たな「生駒市史」を編さんする意義は大きい。優れた専門性を備えた市内在住研究者や学校関係者、ボランティアの参画により「生駒市史」の編さんを行う。	・執筆員等の招へい ・編さん委員会開催 ・5分科会開催 ・編さん室開室 ・ボランティア受入れ ・調査開始 ・記念講演会開催 ・ニューズレター発行など	A 編さん事業の初年度として、編さん組織の立ち上げ・編さん室の開室など事業環境を整備した。また編さん委員会の開催によって基本方針等を策定し、5分科会による情報交換や調査を実施し、ボランティアを募集して作業に携わっていただき、市民みなで行う市史作りの体制を整えた。
歴史・伝統文化の学びの場の提供と情報発信	市内に存在する有形・無形文化財の保存・活用、伝統文化に親しむ機会の拡充や継承を進めるほか、生駒ふるさとミュージアム等を拠点とした郷土学習の場の提供や歴史文化の発信を行う。あわせてデジタルミュージアムによる情報発信を行うことで、市民が容易に生駒の歴史や伝統文化に触れることができる環境を整備する。	・ふるさとミュージアムにおける特別展・企画展、各種講座等の開催(年間来館者数8,539人) ・小学校への出前授業(6校) ・デジタルミュージアムの運営と周知(年間アクセス数28,653件)	
		・市内小学校6年生への「茶道体験教室」の開催 ・ふるさとミュージアムにおける企画展等の開催 ・デジタルミュージアムの運営と周知 ・「鷹山家文書」等古文書活用事業の実施	A 企画展や特別展をはじめ、本市の文化財や歴史にふれる展示、新規講座の開催等により、歴史文化を学ぶ機会を提供した。ふるさとミュージアムにおける各種事業のほか、デジタルミュージアムによる情報発信や、郷土学習に関する出前授業により、歴史文化にふれる裾野が広がった。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
市民との「協創」による「音楽のまち生駒」の発信	「市民みんなで創る音楽祭」など市民の企画提案によるコンサートの開催を通じて、市民が身近に様々なジャンルの音楽に親しめる機会を提供する。 また、吹奏楽を愛する市民により結成された「生駒市民吹奏楽団」の活動を支援するとともに、市内学校の吹奏楽部・バンド等との連携のもと、合同演奏会などの開催を通じてあらゆる世代の市民に吹奏楽や音楽の楽しさを提供・発信する。	◎「市民みんなで創る音楽祭」 提案団体 11団体 実施団体 10団体 来場者数 2,646人 出前授業 3校 参加者 304人 ◎市民吹奏楽団事業 ・「市制50周年記念 いこすいフェスタ」(10月31日開催) 来場者数 370人 ・「0才から楽しめるファミリーコンサート」(7月11日開催 2回公演) 来場者数 663人 ・「いこま吹奏楽の日」中止 ・「市民みんなで創る音楽祭」の開催 ・市民吹奏楽団の運営、事業開催 /「市民みんなで創る音楽祭」提案団体数:12団体	A 各団体や関係者と調整や検討を行い、感染防止対策を講じながら各種音楽事業を開催し、コロナ禍にあって市民に生の音楽にふれていただく機会を提供した。 来場者の定員は半数以下としたが、集客率も高く、「音楽のまち生駒」を発信し、音楽に親しむ機会や活動の成果発表の機会とすることができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
生駒ふるさとミュージアム管理運営	市の歴史文化の普及のため、生駒ふるさとミュージアムの指定管理者と連携して、適切に管理運営する。	生駒ふるさとミュージアムの来館者数(年間):8,539人 生駒ふるさとミュージアムの来館者数(年間):8,000人	A 市制50周年記念事業としての企画展や身近な文化財をテーマとした特別展の開催等により、初めての来館者も増え、ふるさとミュージアムの認知度の向上、歴史文化の普及啓発に寄与した。 また、夏休み期間中には「勾玉体験」による子どもたちの来館が昨年度以上に増え、目標以上の来館者数となった。
文化芸術事業	市民の文化芸術活動を活発化するため、成果発表会の場の提供や指定管理者の自主事業の実施、文化芸術団体との連携などを推進する。	生涯学習施設で行われる芸術文化活動の参加者数:10,262人 生涯学習施設で行われる芸術文化活動の参加者数:37,100人	A 感染防止対策を講じた実施方法を工夫するなど関係団体や指定管理者等と連携しながら積極的に事業実施に取り組み、昨年度を大きく上回る参加者数を得た。
文化財保護と歴史文化の普及	市の歴史の普及を図り、郷土愛を醸成するとともに、市の貴重な文化財保護を行う。	歴史文化系講座聴講者数:1,249人 歴史文化系講座聴講者数:990人	A ふるさとミュージアムの指定管理者により、新規の2講座を含む歴史講座を実施するほか、小学校への出前授業等により、郷土の歴史文化の普及に取り組んだ。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

文化芸術や歴史文化に関する事業では、感染防止対策を講じたうえで、実施内容を工夫し、前年度より多くの参加者を得ることができたが、参加者はシニア層が中心で、子どもから働き盛り世代にも参加してもらえるような内容や実施手法の工夫が必要である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

引き続き魅力あるイベントの開催を通して市民が文化芸術に親しむ機会を増やすとともに、市史編さん事業における記念講演会や歴史キャンパス事業、ふるさとミュージアムの各事業等を通して、本市の歴史文化を発信し、郷土愛を高める取組を進める。

<参考データ>

生駒ふるさとミュージアム来館者数

(単位：人、件)

	大人	子ども	合計	多目的室利用件数・人数	
平成29年度	7,257	2,894	10,151	319	6,297
平成30年度	6,215	3,084	9,299	352	6,525
令和元年度	5,828	1,706	7,534	278	4,072
令和2年度	4,683	1,617	6,300	152	2,555
令和3年度	5,230	3,309	8,539	339	5,039

文化芸術事業の開催状況

(単位：回、人)

	種 別	令和3年度		令和2年度	
		延べ回数	参加者数	延べ回数	参加者数
市主催事業	市民文化祭等	16	6,669	11	6,597
文化芸術団体補助事業	コンサート等	1	65	0	0
指定管理者自主事業	コンサート等	12	3,528	2	609
	講 座	247	3,948	1	94
合 計		276	14,210	14	7,300

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

4 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	誰もが身近な地域で気軽にスポーツ活動を行えるよう、市内の総合型地域スポーツクラブの発展を支援するとともに、新たなクラブの設立に向け、関係団体への情報提供や人材育成を行います。	・広報掲載、チラシ配布等による各クラブの周知啓発活動支援 ・生駒市総合型地域スポーツクラブ連携会議の開催(1回) /会員数:894人	A 新型コロナウイルスの影響はまだ続いているが、各クラブが実施する事業等についての情報交換を行うことにより、会員数を増加させることに繋がった。 また、学校部活動の地域移行に伴う県からのモデル事業を受託し、市内総合型クラブによる部活動運営となる仕組みづくりを行った。
		・各クラブに対する活動支援 ・新規クラブ設立に向けた情報提供や人材育成 /市内クラブの会員数:900人	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
みんなのスポーツ推進事業	子どもから高齢者、障がい者などあらゆる市民が、スポーツに親しみ、楽しむ機会の充実を図ります。	・スポーツを始めるきっかけやスポーツに親しんでもらえる1日とするため「いこまスポーツの日」(3/20)を開催 参加者数:622人 ・障がい者スポーツ用品の購入及び活用(eスポーツ用品) ・障がい者対象スポーツ事業:3回開催 ・障がい児用運動プログラムモデル事業:中止	A 「いこまスポーツの日」の開催にあたり、市スポーツ施設指定管理者や市内総合型地域スポーツ等と連携したことで、バルセロナアカデミー奈良校によるサッカー教室、リレーマラソンやeスポーツ体験会、バドミントン教室、ねわざ祭り@いこまの開催など、新しい取り組みを実施することができ、多くの市民の参加を促すことができた。
		・いこまスポーツの日の開催(1回) ・障がい者対象スポーツ事業の開催(4回) ・障がい児用運動プログラムモデルの実施 /みんなのスポーツ推進事業の開催:5回/年	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和3年度の取組/設定目標	
トップアスリート連携事業	スポーツに憧れや夢を抱けるように、メダリストやトップアスリートを招き、スポーツ教室や講演会を開催し、有名スポーツ選手と触れ合う機会をつくれます。	・東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレーが生駒市内を通過し、ミニセレブレーションを実施した(209人出席) ・オリンピックメダリスト松田丈志氏の講演会を実施した(296人参加) ・元Vリーガーによるバレーボール教室を実施した(16人参加) ・オリンピックによるアーチェリー体験会を2回実施した。(40人参加) ・スポーツ教室や講演会の実施 /アスリート連携事業の実施:年5回	A 新型コロナウイルスの影響により、トレイルランニング教室、ちびっこ相撲体験会は中止となったが、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を機にメダリストの講演会や体験会を実施し、市民の皆様にトップアスリートと触れ合う機会を創出した。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
健康ウォー キング等の 推進	生駒山スカイウォークやチャリロゲイこまなど、誰もが気軽に参加でき、スポーツを始めるきっかけとなるイベントを開催する。	・生駒山スカイウォーク：中止 ・チャリロゲイこま：中止 生駒山スカイウォーク：1,200人 チャリロゲイこま：150人	C 生駒山スカイウォーク、チャリロゲイこま共に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。
子ども体力 向上事業の 実施	子どもの体力向上を目指すため、子どもを対象としたスポーツイベントを開催する。	子どもを対象としたイベント・事業の参加者数：1,359人 設定目標 子どもを対象としたイベント・事業の参加者数：2,300人	A 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった事業もあるが、感染対策を講じて水泳競技大会や、IKOMAマラソンチャンピオンシップなどの種目別競技会を開催し、子どもたちのスポーツ活動の発表の機会とした。
スポーツ、レ クリエーシ ョン活動	様々なニーズに合ったイベント、講座等を開催し、誰もがスポーツに触れることができる環境を整備する。	市内各種スポーツイベントなどの参加者数：5,402人 設定目標 市内各種スポーツイベントなどの参加者数：20,000人以上	A 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市民体育大会やふれあい市民マラソンなど、例年多くの市民が参加する事業が相次いで中止となる中、スポーツ推進委員や（一財）生駒市スポーツ協会と連携し、ファミリースポーツの集いやスポーツ教室などを開催した。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
社会体育施設 の管理運営	市民のスポーツ活動 の拠点となる社会体 育施設を適切に管理 運営し、スポーツ環境 の整備を図る。	市内体育施設の利用 者数：826,991人 設定目標 市内体育施設の利用 者数：1,000,000人	A 新型コロナウイルス感 染拡大防止 対策のための利 用制限などによ り、利用者数はコ ロナ前と比べると 減少しているが、 指定管理者と連 携し、感染拡大防 止対策を講じて 施設利用者の安 心安全の確保に 努めた。 また、市民体育館 バスケットゴール 等非構造部材改 修工事や、山麓公 園テニスコート人 工芝張替工事等 の環境整備を行 った。
スポーツ推 進審議会の 開催、スポ ーツ推進委 員の運営	審議会を通じて専門 家や市民から市のス ポーツ施策に関する 意見を聴くとともに、 地域住民であるスポ ーツ推進委員と協働 してスポーツの普及 を図る。	スポーツ推進審議会 開催回数：2回 スポーツ推進委員 会議：2回 研修会等：1回（中 止6回） 実技指導：6回（中 止5回） その他地域での実 技指導	A スポーツ推進審 議会では、計画期 間延長された 「生駒市スポーツ 推進計画【改訂 版】」の各施策の 進捗状況や検証 等を行った。 スポーツ推進委 員では、多くの事 業が新型コロナウ イルス感染拡大 防止のため中止 となったが、ファ ミリースポーツの 集いやいこまスポ ーツの日等は感 染対策を講じて 事業を実施した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、スポーツ事業の中止やスポーツ団体の活動休止が相次いだ。コロナ禍で開催された「東京2020オリンピック・パラリンピック」の開催記念として、感染対策を講じた上で、オリンピックメダリスト等と連携し事業を実施することができ、市民がスポーツに夢や憧れを抱ける機会を創出することができた。
また、スポーツ界で注視されている「運動部活動の地域移行」について、市スポーツ協会や市内総合型地域スポーツクラブと連携し、モデル事業を実施することで、課題の抽出や今後の対応策を検討する機会となった。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

市教育大綱アクションプラン掲載事業である「総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業」や「みんなのスポーツ推進事業」については、新型コロナウイルス感染症対策の今後の方向性を見極め、引き続き取り組みを推進する。また、国が令和5年度から段階的な移行を目指している「運動部活動の地域移行」について、市スポーツ協会や市内総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツ団体と更なる連携強化を図り、生徒のスポーツ活動が途切れることなく、生徒にとって充実したものとなるようスムーズな移行のための環境を整備する。

<参考データ>

スポーツ、レクリエーション活動の実績

(単位：人)

事業名	令和3年度	令和2年度	事業名	令和3年度	令和2年度
体育大会	960	中止	体育館無料開放	745	826
体育祭	廃止	廃止	学校体育施設開放	2,458	2,314
ファミリースポーツの集い	134	256	生駒ふれあい市民マラソン	中止	中止
小学生長距離走記録会	300	231	生駒山スカイウォーク	中止	中止
スポーツ教室	2,065	3,359	チャリロゲイこま	中止	115

社会体育施設の利用実績

(単位：人)

施設名	令和3年度	令和2年度	施設名	令和3年度	令和2年度
生駒北スポーツセンター	121,846	88,674	滝寺公園	122,835	61,207
イモ山公園	60,601	35,947	むかいやま公園	40,228	35,387
北大和	114,764	75,793	小平尾南	44,230	37,995
総合公園	124,526	101,125	井出山	173,501	133,364
山麓テニス	24,460	21,516	合 計	826,991	591,008

点検及び評価に関する意見

(1) 教育委員会の活動状況に対する意見

生駒市が、教育・学術及び文化の振興に関する総合的な施策の生駒市教育大綱を策定した平成 28 年 6 月から 5 年が経過した。推進期間 4 年として令和 2 年 6 月から、「第 2 次生駒市教育大綱」に基づく事業がスタートし、本年度は 2 回目の点検評価となっている。

毎年「アクションプラン」を策定・更新することで教育理念の具現化を図ってきた。市長マニフェストとも連動し「PDCA」が年度ごとに活かされ、発展的かつ一貫性を持った取組が進められ成果につながっていることに加え、長期的展望に立って先進的な改革を目指し積極的に取り組まれている点を評価している。

一方で、猛威をふるう新型コロナウイルス感染症は未だ終息せず、子育て・就学前教育の場、学校教育の場、生涯学習の場において大きな影響を与え、混乱を招いている。このような状況下において、取組内容を重視した評価が行われた。

先行き不透明な状況下にある中、これからも実績をしっかりと点検、評価し、改めるべきところを見極め、いつ終息するともわからないコロナ禍、「with コロナ」から「after コロナ」を見据えて市を挙げて、今後とも、臨機応変に対応していただきたい。

(2) 生駒市教育大綱に基づく施策・事業に対する意見

基本方針 1 子育てを楽しめる地域づくり

1 保護者支援の場・コミュニティづくり

「地域で支えあう子育ての推進」は A 評価に転じた。コロナ禍における活動自粛や在宅ワークの増加等、様々な社会構造の変化により、求められる形も変わってきたが、それらに対応してボランティアを中心に交流会を実施し、地域で支え合う形が更に構築されていることに希望を感じる。益々、事業の必要性が増すと思われる。これからも更にファミリー・サポート事業の周知を図り、地域で支え合う子育てのコミュニティ構築を期待する。

「待機児童解消に向けた取組の推進」も A 評価となった。小規模保育所の開園、保育人材の確保をはじめ、保育コンシェルジュによる出前相談会やコロナ禍にあっても工夫したサポート体制が進んでいるのは評価に値する。令和 6 年までの待機児童解消に向け、今後も取組の強化をお願いしたい。

妊婦期から子育て期にかけて、切れ目のない子育て支援事業が展開されていて評価する。さらに、民間学童保育所の開設にも取り組まれ期待している。子育て世代の保護者が孤立せず、虐待の未然防止、早期発見も含めて子どもたちが安心して過ごせるよう、家庭・地域・学校・事業者・行政が連携し、地域全体で見守り、育み、子どもたちの健全な成長に向けて今後も様々な家庭に応じた支援をお願いしたい。

2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実

コロナ禍にあっても、できる範囲での交流や保幼小の接続連携事業も実施できたと思われる。「遊び」を「学び」につなぐ幼児教育の可視化を保護者にも示したことは評価できる。今のコロナ禍では困難な点も多くあるが、世代間交流や事業者との連携等、「協働」による楽しく充実した取組を今後も期待する。

保護者の働き方の変化も踏まえ、保護者のニーズへの対応が求められるとともに、国及び県からの補助金の確保に努めていただき、どんな状況下でも、きめ細やかな対応をお願いしたい。

基本方針 2 21 世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり

1 「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」の推進

本市では以前から「地域ぐるみの児童生徒健全育成事業」等、地域の実情に応じ特色ある教育活動が地域と連携してなされてきた。それらを基に発展させた「学校運営協議会」を市内全小中学校に設置し、本格的にコミュニティ・スクールが始まったことは評価できる。

今や、学校や家庭だけでは十分とは言えない教育や子育てを、それぞれの長所を生かし合い、欠点を補う中で、学校・保護者・地域住民の協働を通して「地域とともにある学校の実現」に向け、学校間の情報を共有し、更に充実したコミュニティ・スクールの取組を期待している。

2 ICT 機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備

ICT 機器を活用した環境整備については、国の GIGA スクール構想を始め令和の日本型教育の実施事業に合わせ、生駒市でも今まで積み重ねてきた実績を生かし進められている。1 人 1 台のパソコン端末が整備され、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による新しい学びの形をいこまモデルとして提案し、日常的な指導において日々改善を図り効果が定着するよう進められていることに期待している。

オンライン学習や協働学習で ICT 機器を活用し、学校だけでなく学校と家庭を結ぶツールとして利用していくこと等、新たな学びの環境整備とともに、教員の ICT 活用能力向上についてオンラインでの研修等、向上がなされており、

更なる活用を期待している。子どもたちに情報伝達の便利さとともに ICT 活用マナーの育成指導もお願いしたい。

また、国の補助金採択を受け、中学校のトイレ改修が進められ S 評価となった。学校給食センターの整備もコロナ禍で間に合わないことも出てきたが今後の改善を期待している。

3 多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成

「自殺対策推進事業」「ICT 機器を安全に活用するための情報モラル教育の推進」が新たな事業・取組として示された。いじめ根絶に向け、すべての組織が自らの課題と捉え主体的に取組がなされていると思うが、コロナ禍が続いている中で、子どもたちの様子も察知しづらくなってくる。全国的に SNS を利用したいじめを始めとする悲しい事件の報道もある。そのような状況下でこの二つの取組を喫緊の課題として新たに取り組まれ、研修も深められつつあることを評価し更なる取組に期待する。

今後も教員が児童生徒の出す信号に素早く対応するためにも、各校園に「スクールカウンセラー」「スクールソーシャルワーカー」「スクールアドバイザー」等が派遣され、「カウンセリング」や「教育相談」の充実が図られ、今後もいじめ防止に向けた学校づくりの推進と、更なる充実に向けた取組をお願いしたい。

また、特別教育支援体制として、「教育相談室」「適応指導教室」「ことばの教室・通級指導教室エル」等も成果を上げていて評価したい。近年、特別な支援を要する子どもたちが増加傾向にある。よりきめ細かな特別な支援に対し、今後も更なる体制の充実をお願いしたい。

4 主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心の育成

「主体的に行動する力」「課題を見つけ、解決する力」「グローバル時代に対応する語学力」「他者と協働するためのコミュニケーション能力」を育成し、これからの社会の中においても、生き抜く力を身につけることができる学びの環境を充実していくことが求められている。

コロナ禍にあって、様々な活動が実施できない状況下である。子どもたちが「得意なこと」や「好きなこと」を通じて、将来の「自立」を実感できる実体験を増やすことで、興味ある分野への好奇心が促され、失敗しながらもチャレンジを続ける逆境に負けないたくましい心身が育成される。

自分の夢を持ち、自己有用感を高めることができる心の教育と健やかな体を育成する取組として「社会に開かれた学校教育推進事業」が新しく掲げられ、「あこがれいこまびと講演事業」や、「生駒こどもチャレンジ補助事業」「チャレンジ！やさしくたくましいいこまっこキャンプ」等にも引き続き取り組んでいただきたい。

また、理科離れが進む中、奈良先端科学技術大学院大学と連携した授業も以前から行われているが、市にある連携できる機関を利用し今後益々子どもたちが興味関心を高めることを期待する。

5 「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備

教職員の働き方改革で、「教職員が生き生きと子どもと向き合う時間創造プログラムの推進」が着実に推進されることにより、21世紀を生き抜く力の育成に向け、「わかる授業」「楽しい授業」から「学びの喜び」を子どもたちに感じさせることが更にできると思われる。

「スクールサポートスタッフ」の配置により、教職員の勤務時間の削減ができ、教職員が授業や教材研究に集中し、ゆとりをもって子どもたちと向き合う

時間の拡充が今まで以上に図れると思われる。市内全ての学校に配置されることをお願いしたい。

新型コロナウイルス感染防止策を始め、子どもたちの心身の変調等、益々、教職員は新たな重要な任務を担っている。コロナ禍により、行事の見直しや削減、精選も余儀なくされている中、この機会に立ち止まり、子どもたちのために、何を大切にしていくか見直しの機会としていただくとともに、子どもたちの成長、学習能力向上のために教員は更に自己研修に努めていただきたい。

今後も想定できない状況も考えられる。現場と行政が連携し素早い的確な対応と指導をお願いしたい。

基本方針 3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり

1 すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出

「IKOMA サマーセミナー」は、子どもから大人まで幅広い世代が学びたいことを気軽に学べ、様々な特技や専門知識等を持った市民自身が先生となって開催される、市民の学びと活躍の場である。新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度も昨年度に引き続き、対面型（集客）の形式にこだわることなく、オンラインツールによる動画配信形式でサマーセミナーを開催し、多くの閲覧があったことは評価できる。社会状況に応じたサマーセミナーの新たな開催方法を考案・工夫し、成果を上げていることは評価したい。同時に、対面や交流により得られる成果・効果をどう引き出すかについては、今後更に工夫・検討していくことを期待したい。

高齢社会において、高齢者の豊富な経験と知識・技能が生かされ、多くの高齢者が活躍できるまちづくりが望まれる。「いこま寿大学」の「ボランティア講座」の開催や、同大学卒業生等の有志による「寿生駒連絡協議会（気らくネ

ット)」と小中学校との活動につなげる等、地域での活躍の場を広げる様々な取組は成果が期待できる。

不登校や学校を卒業した若者のニートや引きこもり等、困難を抱える子どもや若者を支援する事業として、「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」を運営し、子ども・若者総合相談窓口「ユースネットいこま」を拠点に相談支援をした。昨年度に引き続き、コロナの感染防止対策としてオンラインによる相談体制を実施し、進路決定に向け支援体制を強化したことは評価できる。コロナ禍における社会状況の変化により、不登校の相談の増加等相談傾向の変化が見られ、様々な生きづらさに対するきめ細かい支援をより一層期待したい。

「ユニバーサルキャンプ in 生駒」は、年齢や性別、障がいの有無や国籍・文化等、個々の違いや多様性を認め合う機会を提供する事業として計画・実施してきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年度に引き続き本年度も中止した。感染リスクの低減・感染拡大防止と、対面や交流により得られる効果の両立を図る事業の実施に向け、内容や方法の更なる工夫・検討を期待したい。

2 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた

図書館づくり

子どもの読書活動充実に向け、家庭・地域・学校の連携づくりの取組として本年度は「トライ！ 生駒子ども読書会議」で読書を通じてコミュニケーションを図り家族の絆を作る取組である「家読」の推進に取り組んだことは評価できる。また、子どもの健やかな成長の糧となるよう、「絵本の会」「おはなし会」等のブックスタート事業を実施する等、充実した取組が実施されていることは評価したい。

図書館は人と本の出会いの場であり、本を通して人と人のふれあいを深める

場の役割を担っている。「ビブリオバトル全国大会 in 生駒」を、本年度も昨年度に引き続きオンライン配信の活用や客席制限等コロナ対策の創意工夫をして、年齢や地域の枠を超えて語り合う場を開催したことは評価に値する。また、コロナ禍におけるオンライン配信等の取組が高く評価され、Bibliobattle of the Year 2021 大賞を受賞したことは評価される。

市民との連携や「協創」のもと、新たな文化を創造する「まちづくりのプラットフォーム」となる図書館を目指し、「未在亭」や本を通じた仲間づくりや健康づくりやまちづくりをめざして「朝活読得会」や「まちかど図書室」等の取組を実施し、人と本、人と人をつなぐ図書館づくりをしていることに今後も期待している。

図書館の運営と充実はB評価であるが、社会全体として読書離れが進んでいる中、市内イベントにおいて出張図書館を開催し館外での貸出を開始する等、図書館職員が地域に出向き気軽に本に親しむ機会をつくっていることは評価できる。

読書活動ボランティアとして、音訳ボランティア、学校図書修理ボランティア、代読サービスボランティアを計画的に養成されており、学校図書修理ボランティアは活動を開始した。今後も各ボランティアと協働した活発な活動をお願いしたい。

3 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現

市民が興味・関心や親しみを持って、地域に根付いた歴史や伝統文化・芸術に触れることは、より豊かなまちづくりにとって意義深いと考える。

生駒市の成り立ちや出来事を再発見し、先人の知恵や勇氣に触れて、生駒市への愛着を深め、将来の生駒市を考えていくための様々な情報を発信する「生駒市史」の編さん事業は、市制50周年を記念した事業として期待している。

市民が容易に生駒の歴史や伝統文化に触れて学ぶことができる機会を提供する活動として、生駒ふるさとミュージアムの特別展・企画展、各種講座等の開催や、小学校への出前授業の開催がある。これらの活動により、歴史や伝統文化・芸術の広報や学習の機会を提供しており評価できる。さらに、生駒市デジタルミュージアムへのアクセス数も年々増加しており、成果を残している。生駒ふるさとミュージアムの様々な活動に今後も期待している。

「音楽のまち生駒」の発信では、「市民みんなで創る音楽祭」や「市制 50 周年記念いこすいフェスタ（市民吹奏楽団演奏会）」や「0 才から楽しめるファミリーコンサート」等を開催した。コロナ禍なので感染防止策を講じながら来場者の定員は半数以下での開催となったが、開催定員に近い来場があった。市民に、生の音楽にふれて親しむ機会や、活動の成果を発表する機会を提供できたことは評価に値する。

コロナ禍の中、感染防止対策を講じた実施方法の工夫等により、文化芸術関係の事業や公演も昨年度を上回る参加者数を得たことは評価できる。参加者の世代については、全ての年齢層の市民の参加を促せるような企画や開催方法の工夫・検討をお願いしたい。

4 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展

生駒市では、スポーツを通じて、健康づくり、生きがいづくり、仲間づくり、そして豊かなまちづくりを目指し、以前から様々な形でスポーツ活動事業を推進・支援してきた。

統合型地域スポーツクラブは「多種目・多世代」で「いつでも・どこでも・誰でも」が参加できるスポーツ環境の在り方として推進されてきた。本年度、「学校部活動の地域移行」について市スポーツ協会や市内統合型スポーツクラブと連携し部活動運営の仕組みづくりを行ったことは評価し、今後の活動に期

待している。

みんなのスポーツ推進事業は、年齢や障がいの有無に関係なく全ての市民が、スポーツに親しみ、楽しむ機会の充実を図ることを目的としている。事業の一つである「いこまスポーツの日」には、サッカー教室、リレーマラソンやeスポーツ体験会、バドミントン教室等を開催し、新しい組織との連携や取組の実施により、多くの市民の参加があったことは評価できる。今後も期待している。

トップアスリート連携事業は、メダリストやトップアスリートを招き、スポーツ教室や講演会を開催し、全ての市民に憧れや夢を与える機会であり、有名スポーツ選手と触れ合うことが大きな影響を与えると考える。特に令和3年度は「東京2020オリンピック・パラリンピック」の開催年で、オリンピックのメダリスト等と連携し事業を実施したことは高く評価できる。今後もこの魅力的な事業の継続をお願いしたい。

健康ウォーキング等の推進は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため「生駒山スカイウォーク」と「チャリロゲいこま」ともに中止となり、評価となったが、新型コロナウイルス感染症対策の今後の方向性を見極め、工夫・検討した取組に期待している。

コロナ禍のため中止せざるを得なかった事業もあるが、感染拡大防止対策を講じスポーツ事業を計画・実施していることは高く評価できる。

令和4年8月3日

生駒市教育委員会活動点検評価委員 岡 島 洋 子

生駒市教育委員会活動点検評価委員 山 中 和 幸